

NEWS!

Vol.35-1

No.179

平成28年1月号

編集・発行

松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年は、為替相場が円安基調で割りと安定的に推移し、引き続き原油安もあって工作機械を取り巻く環境は、比較的に良好な1年であったと思います。この原稿執筆時点での日工会11月の受注額速報値は1,142億円、前年同月比は4ヶ月連続減少になりますが、27ヶ月連続で単月1,000億円を超えており、通年で1兆5,000億円程度となる好況な年と言えそうです。

そんな環境下でマツウラは、昨年お陰様で創業80年の節目を迎えることが出来ました。三世代に渡り80年も会社を繋いでこられたのも、一重にお客様をはじめ、仕入先の皆様、そして社員の方々のお陰であると深く感謝申し上げる次第です。重ねて11月に行われました故松浦正則会長の「お別れの会」に大勢の皆様にお集まり頂き、厚くお礼申し上げます。

ここに、故人が生前に皆様方から賜りました数々のご厚情、ご厚誼に対しまして、謹んでお礼申し上げます。

昨年は、久し振りにイタリア・ミラノでEMO2015が開催され、最新鋭5軸機の出展に加え、新規開発した高速・高剛性・高精度横形マシニングセンタ **H.Plus-400** と **H.Plus-500** 二機種を同時にデビュー、欧州市場での存在を大いにアピールすることが出来ました。また11月にドイツ・フランクフルトで開催された造形機関連展示会 formnext にハイブリッド金属3Dプリンタのパイオニア **LUMEX Avance-25** を出展、造形デモや事例展示が大変注目を集めました。本年より本格的に欧州造形機市場に参入致します。

生産量増強とリードタイム短縮を目指し本社・武生両工場の拡張工事が昨年末に完工、4月から本格稼働を予定致しております。

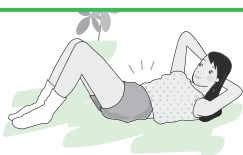
昨秋から景況は総じて足踏み状態になりつつあり、中々かじ取りの難しい一年になりそうですが、本年を創業100年に向けて次の成長を目指す最初の年と位置付け、マシニングセンタに加え金属3Dプリンタを弊社の柱に育てて更なる筋肉質な企業体を目指したいと思っております。

本年も引き続き、格別のお引き立てを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

株式会社 松浦機械製作所
代表取締役社長 松浦 勝俊

日本のヘソ

福井 No.177



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第177回目は「福井モデル」の話です。藤吉雅春著の「福井モデル 未来は地方から始まる」が文藝春秋社より平成27年4月に発刊されました。本の中で、世界に通用する「福井モデル」を分析しています。

①女性も羽ばたく「一緒にやろう経済」

合計特殊出生率が高く、子供を産みやすく育てやすい環境で、それでいて女性が働きやすい環境がある。

②「自発教育」で全国トップレベルの学力

子供たちが自分の学習の進み具合と気づいた点を日誌に書き、それを教師がサポートしています。

③地域丸ごとインキュベーター

福井県には、シェア世界一、日本一の企業が多数あります。どの企業も、地域で大学や異業種との連携を取って研究開発を行っています。

④よそ者に対する「おもてなし」

世界一の製品や技術を作り続ける福井は、生きていくためにはよそ者を拒まない。よそ者を快く受け入れる「おもてなし」が成功しています。

先人が培ってきた福井での生活様式が「地方の成功モデル」になっています。

ユーザーを訪ねて No.164

「若い社員」「5軸マシニングセンタ」「新しい工場」を武器に営業活動

今回のユーザーを訪ねては、埼玉県内を走るJR川越線武蔵高萩駅から車で東へ5分ほどの株式会社アビコマシンを取材いたしました。取材には安彦英樹社長にご対応頂きました。昭和48年に安彦社長の実父である安彦昌訓氏が旋盤加工を行う会社として創業されました。

「私は、学校卒業後にダイカスト会社に就職し、会社を継ぐ気持ちはありませんでした。しかし、父と一緒に働いていた母親が病気になり、助けるつもりで平成元年に入社しました。当時はダイカストの穴加工を中心に仕事をしていました。創業当時は自宅で、その後近所のアパートの1階で20年近く操業していました。平成20年に現在の地に新しい工場を建設し移転しました。会社に来られたお客様に一つでも強い印象を持って頂きたいとの思いを込めて、一枚の大きな透明ガラス扉を事務所入り口に作りました」と安彦社長。



▲工場全景

マツウラの立形マシニングセンタ「RA-3F」を設備

「取引先が、マツウラの2面パレットチェンジャー標準装備の立形マシニングセンタ**RA-2**を設備していました。その取引先の仕事をする為に、**RA-2**よりワンランク上のX軸ストロークが740mmある立形マシニングセンタ**RA-3F**を平成4年に設備しました。1面のパレットには4軸テーブル付加工様の機械でした。主軸回転数は15,000回転と高速であり、4軸加工が出来るので他社との差別化ができました。プログラム作成はマツウラの**GibbsCAM**を導入し、機械もCAMもマツウラで統一しました。ある時マツウラのマシニングセンタを設備している別の会社を紹介され、「マツウラの機械を設備しているのであれば信用できるので、当社の仕事をして欲しい」と言われ、F1やエンジン関係の仕事をするようになりました。マツウラのマシニングセンタで新しい取引先が出来、機械が営業をしてくれました」と安彦社長。

経営者であるとの意識改革

「**RA-3F**で様々な会社の仕事ができるようになった時、ある会社の社長と出会いました。その当時私の名刺には主任との肩書きが書いてありましたが、その社長は「貴方は将来経営者になる人なので専務と呼びます」と言われ、それ以後専務と呼んで頂きました。それから経営者としての自覚を持つようになりました。その後、その会社が都合により廃業することになり、その会社から3次元測定器を譲り受けました。経営者としての自覚を持たせてくれ、また3次元測定器を譲って頂き当社の技術的基盤を支えてくれたこの社長には、本当に感謝しています」と安彦社長。

マツウラのマシニングセンタを多数導入

平成8年に立形マシニングセンタ**RA-2**、平成12年には立形マシニングセンタ**MC-660VG**、平成17年には立形マシニングセンタ**V.Max-800**、平成23年には立形マシニングセンタ**V.Plus-550**、平成25年には5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**、そして平成27年にも同型機5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**を設備しています。現在マツウラのマシニングセンタが全部で6台稼働しています。

「ある時、形状精度±5ミクロンのスクロール加工の仕事があり、迷わず**V.Max-800**で加工したところ一発で精度が出ました。その取引先では新しい機械を設備して同じスクロール加工を行いました。精度を出すのに大変苦労したとのこと。マツウラの機械性能に感謝しています。

初めて5軸加工機**MX-520**を設備した時には周囲から「5軸は技術的に難しいので止めた方が良い」との助言もありました。しかし、既に**GibbsCAM**で5軸対応の



▲安彦社長

「三次元測定器」「CAD/CAM」 を行う株式会社アビコマシン

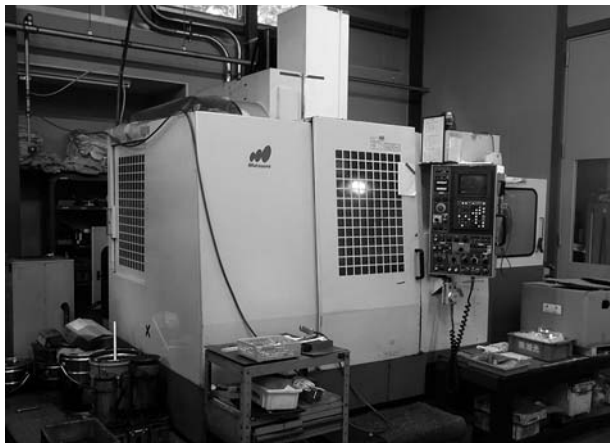
プログラム作成が出来る能力を持っていたので不安はありませんでした。この様に機械を次々に設備している理由は、20年以上の古い機械では他社と勝負が出来なくなるので、最新の機械が必要との思いからです。儲かったら機械を設備するとの信念で経営を行っており、自宅には資金が回らず築40年の状態です」と安彦社長。

独自の営業活動

「1台目の**MX-520**を設備した時には、お客様に“5軸機が入りました”とのハガキを送りました。2台目の**MX-520**を設備した時には、今までに名刺を頂いていた方々に“5軸機が入り、こんなことが出来ます”と具体的加工例を入れてメールを送りました。直ぐには仕事に結びつかなくても、訪問した時の話しのネタになります。5軸機**MX-520**が2台あることはお客様に与える印象が違います。また同じ機械なので、2台で加工すれば素早い納期対応が出来ますと言っています。しかし、2台の5軸機を常に稼働させる為の営業には苦労しますが、お客様から“5軸機があるから4軸の仕事も出来るよね”と言われ、仕事の幅が広がっています。正に持っている機械で仕事のレベルを判断されると実感しています」と安彦社長。

将来について

「マシニングセンタを設備する時には、マツウラしか考えていません。松浦社長を含め、多くのマツウラで働く人と知り合いになり、親しくしているので、周りの会社からは不思議に思われています。またこれだけマツウラの機械を設備しているとマツウラスクールや機械立会いでマツウラ本社に社員を行かせることが出来ます。社員が実際に機械を作っているところを見て、またマツウ



▲RA-3F

株式会社アビコマシン 概要

本 社 〒350-1221
埼玉県日高市大字下大谷沢297-4
TEL 042-985-5545 FAX 042-980-5828
U R L <http://www.abkm.jp/>
代 表 者 代表取締役 安彦 英樹
創 業 昭和48年
設 立 平成14年
従 業 員 5名
事 業 内 容 自動車研究開発機能部品、自動車レース
部品、油圧・空圧機器部品、宇宙・航空
関連部品、半導体装置関連部品、特装車
部品、金型部品、一般装置機器部品の精
密機械加工



▲MX-520

ラで働く人と接することで、仕事に対する意識が変わっていきます。

若い時の経験から、家族で仕事する会社ではなく、他人を入れた会社になりたいと思っています。可能ならば20歳、30歳、40歳の社員をバランス良く採用したいと考えています。世の中には、社長が50歳代で社員が60歳代の会社が結構多く、それでは5年後、10年後が戦えません。また当社に私の息子が入社するかは分かりませんが、それでも会社が継続できる体制を作らないと、今いる社員がかわいそうになります。機械も人材も含めて5年後、10年後も戦える会社であるとアピールしないといけないと思っています」と語る安彦社長。

安彦社長とは、私も20年前から面識があり、本社に來られた時や展示会でお会いした時には親しくさせて頂いています。機械の性能はもちろん大事ですが、お客様と接する社員の対応もマツウラブランドを支えていると実感した取材でした。

故松浦正則会長の「お別れの会」を開催

故松浦正則会長は、平成26年12月23日77歳にて永眠いたしました。生前のご厚誼に深謝し、故人を偲び「お別れの会」を平成27年11月14日(土)に福井市内のザ・グランユアーズフクイで開催いたしました。「お別れの会」は、午前と午後の二部に分けて開催し、国内外から約1000名のご参列を賜りました。受付ロビーには故松浦会長の思い出の写真を展示し、参列された方々は、それらの写真を見られ在りし日を思い出されていました。祭壇中央にはやさしく微笑まれる故松浦会長の写真が掲げられ、参列された方々を見守っているようでした。

午前の部の式典では、故人を偲び黙祷を捧げ、お別れの言葉を日本工作機械工業会会長の花木義麿様と福井県機械工業協同組合理事長の清川忠様より頂きました。そして松浦勝俊社長のお礼の言葉の後、皆様が献花されました。式典終了後にお清めの会を行い、故人との思い出を語られていました。

午後の部では、参列された方々から順に献花をされ、故松浦会長の写真をご覧になり涙ぐまれる方もいらっしゃいました。会場に写し出された故松浦会長の在りし日を偲んだ映像を見て、故人を偲んでおられました。



▲式典会場

故松浦会長の足跡



会一期一

「一期一会」生涯にただ一度限りの縁を言うそうだが、私は取って「一期一会」とは一生のご縁に繋がるもの、そのご縁を大事にすることだ、と解釈しています。これは、私の生涯のモットーです。

松浦正則

故松浦会長は、昭和12年3月31日、松浦敏男・ちよ子の長男として生まれました。昭和30年に福井県乾徳(けんとく)高等学校を卒業し、株式会社福井相互銀行入社。銀行に勤めながら夜は父親の仕事を手伝い、昭和33年に銀行を退職し、松浦機械製作所に入社。昭和35年に専務取締役役に、昭和60年に代表取締役社長に就任。高速・高精度のマシニングセンタの開発・製造・販売を手掛けました。また昭和50年から米国に輸出を始め、北米、欧州を中心に海外市場開拓を指揮するなど大きく業績を伸ばしました。平成14年には世界初の金属光造形複合加工機の開発

においてリーダーシップを発揮。平成19年に代表取締役会長に就任しました。

工作機械業界への貢献として、昭和60年に社団法人日本工作機械工業会の理事に就任、様々な委員会の委員長を務めました。福井県での公務として社団法人発明協会福井県支部支部長、福井県機械工業協同組合理事長、福井県公安委員長、更に財団法人福井県文化振興事業団理事長、福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」館長に就任するなど、様々な公職を歴任しました。これらの功績が認められ平成15年には黄綬褒章、平成24年には旭日小綬章を受章しています。



▲献花される方々



▲献花される海外からの参加者

お別れの言葉

一般社団法人 日本工作機械工業会
会長 花木 義麿 様

「松浦さん、あなたは常々『一期一会』を大切にしておられました。毅然として信念を貫きながらもおごらず、親しみやすいお人柄で産業界のみならず、官界・学界など 多岐に渡る分野で幅広い交友関係を築かれ、誰からも慕われていらっしゃいました。今も、あなたの穏やかで温かい笑顔と眼差しが身近に浮かんで参ります。

仕事上におかれては、時代に先駆け、何事にも積極果敢に取り組む姿勢で、社業のご繁栄と我が国工作機械産業の発展に語り尽くせない程、多大な貢献をなされました。

長年にわたってお導き下さいました我が国工作機械業界が、今後とも発展し続けるべく、日本工作機械工業会会員一同、心を一つにして努力して参ることをお誓い申し上げます。

そして今、あなたの御霊が安らかに眠られんことを謹んで祈念し、衷心よりご冥福をお祈り致しまして、私のお別れの言葉とさせていただきます」

福井県機械工業協同組合
理事長 清川 忠 様

「松浦会長が、福井県機械工業協同組合に遺された足跡は、余りにも輝かしく偉大で有りました。鉄工及び機械業界にも日本中がバブル崩壊により、次々と押し寄せる苦難の荒波を乗り越えるために会長が発揮された手腕は余りにもお見事でした。鉄工及び機械工業協同組合に長きにわたり理事長として技術力向上及び担い手確保などに尽力された功績は偉大であります。

会長の後を継いで理事長の職を務めさせて頂いております関係から、お別れの辞の大役を務めさせて頂きました。

ここに松浦会長のご冥福をお祈りし、会長のご功績を称え哀悼の辞を捧げますと共に、ご家族の健康と会社のご繁栄を願い告別の辞と致します」

お礼の言葉

代表取締役社長 松浦 勝俊

「本日は、ご多用中にも拘らず、弊社代表取締役会長で私の父でもある故松浦正則のお別れの会にかくも多くの皆様にお集まり頂き厚く御礼申し上げます。また先程は、花木日本工作機械工業会会長様並びに清川福井県機械工業協同組合理事長様からは、ご丁寧なお言葉を賜りまして深く感謝申し上げます次第で御座います。

創業者も二代目の故人も、『良い機械を作ろう』、『お客様に喜んでもらう』、『社員とともに発展していこう』、この一心で仕事に邁進して参りました。私はまだまだ彼らの足元にも及びませんが、思いは同じで御座います。永年脈々と受け継がれるこの変わらぬ思いを次の世代へ繋げていき、そして100周年を迎える時も同じ事が言えるようにしたいと心から思う次第で御座います。

そしてこれからも社員一同一層精進しマツウラが成長することこそ、何よりの故人への供養かと存じます。

結びにあたり、皆様方から故人に対し生前賜りましたご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後とも故人同様のご厚情を弊社に賜りますよう伏してお願い申し上げます、私の御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました」



▲日本工作機械工業会 花木 義麿 会長



▲福井県機械工業協同組合 清川 忠 理事長



▲松浦 勝俊 社長

マツウラ創業80周年、IMN創業30周年記念家族懇親会の開催

平成27年は、マツウラ創業80周年、IMN創業30周年の佳節でした。これを記念して11月22日（日）に社員及び家族参加の家族懇親会を開催しました。

工場見学

午前中、マツウラ本社及びIMN工場の見学を行いました。社員は家族と一緒に工場を回り、機械のことや自分の業務について詳細を説明していました。お子さん達は、初めて見る工作機械に驚かれ“お父さんはすごい！”と喜んでいる姿が見受けられました。また奥さんに自分の仕事を熱心に語っている社員や、社員のお父さんが、息子の説明に嬉しそうに頷いている光景がありました。

マツウラでは、ショールームのハイブリッド金属3Dプリンタ「**LUMEX Avance-25**」の実演や最新機種のマシニングセンタを、また工場では組立て途中の機械や自動運転されている機械を見学しました。各職場では、そこで働く社員の姿を紹介した映像が流され、ご家族はその映像に見入っていました。IMNでは、高精度に組立てしている様々な機種のマシニングセンタを見学しました。



記念式典

午後は、芦原温泉清風荘にて記念式典及び懇親会を行いました。式典では、まず初めに松浦勝俊社長より挨拶がありました。

「今日は、お休みのところ、お集まり頂き本当にありがとうございます。日ごろは、社員のご家庭の皆様からのご支援を賜り重ねて御礼申し上げます。本年マツウラ創業80周年、ならびにIMN創業30周年を迎えることが出来ました。創業者松浦敏男、先代松浦正則は、良い機械を作りたい、お客様に喜んで頂きたい、そして社員と共に発展していきたいとの気持ちで社業に取り組んできました。その思いを胸に、マツウラ100周年、IMN50周年にも同じ様に家族懇親会を開催したいと思います。ひさしぶりの家族懇親会です。午前中の工場見学では、会社の業務や機械を作っているところをご理解頂けましたでしょうか。限られた時間ですが、楽しんでいただければと思います。今日は誠にありがとうございます」

次に、役員の紹介があり、そして記念映像「Matsuura Old Time & Now Since 1935」が上映されました。創業当時の工場から、現在の工場全景、海外関係会社と社員の姿、そして社員旅行や時折々の社員が映し出され、記憶を呼び覚ましていました。

最後に吉田光慶実行委員長より挨拶がありました。

「本日はご参加頂きありがとうございます。午前中にマツウラ本社、IMNの工場を見ていただき、どのような感想を持たれたでしょうか。自分にも息子がいますが、自分の仕事や、マシニングセンタとは何かを説明するのは難しいです。今日は働く現場を見て私達の仕事を身近に感じて頂けたでしょうか。80周年、30周年の長い歴史は先輩方の努力と、ご家族の支えがあったからこそと思います。松浦会長のモットーにされていた“一期一会”、人と人との出会いが、このマツウラを築き上げてきたと思います。500人以上が参加され、この後イベントなどを準備していますが、ご家族だけで楽しめるのではなく、参加されているご家族との友好を深め、このご縁を大事にしたいと思います」

懇親会

4会場に分かれて昼食を取り、その後イベント会場にてバルーンアート、模擬店、ゲームが準備され、お子さんと一緒にご家族が楽しい時間を過ごされました。最後に豪華商品の抽選会が行われました。松浦社長がくじを引かれ、当選者が決まり壇上に上がる度に大きな声援が上がっていました。16時に全ての行事が終わり、家族に感謝する1日となりました。



株式会社島精機製作所様へ、20,000号機の記念品を贈呈

昨年10月26日(月)に、松浦社長は、マシニングセンタの20,000号機を納入した株式会社島精機製作所を訪問し、生産技術部田上知之部長に記念品を贈呈いたしました。

「松浦機械製作所の20,000号機を納入出来て光栄です。今後とも末永いお付き合いを宜しくお願いします」と田上部長からお礼の言葉を頂きました。

島精機製作所は、和歌山県和歌山市にあり、手袋編機をはじめ、コンピュータ横編機、デザインシステムのトップメーカーとして、世界から高い評価を得ています。同社は、昭和62年にマツウラの横形マシニングセンタ**MAM72-35V**を初めて導入。現在横形マシニングセンタ18台、5軸制御立形マシニングセンタ**MAM72**が15台稼働しています。20,000号機は、昨年10月に納入した**MAM72-35V**です。この機械はパレットを38枚装備しているので長時間無人運転可能なマシンです。それ故、昼間は試作部品加工や一品物の加工を行い、夜間はコンピュータ横編機の高精度な量産品を加工しています。

「**MAM72**シリーズを設備している理由は、マツウラ独自のタワー方式多面パレットによる72時間無人運転と5軸加工によるワンチャッキング加工が当社のモノづくりコンセプトに合っているからです。またワークサイズφ350mmが当社の加工品の大きさに適しています」

「将来的には、高品位なモノづくりを人・機械が一体になって行うような人工知能を有したモデルの開発を期待しています。具体的には、加工プログラムが加工を重ねることで自動最適化する、機械の状態を常に作業者に伝え入力した情報に誤りがあれば自動的に修正する、他の**MAM72**と連携して稼働率向上をアドバイスする等です。今後もより高い次元での“モノづくり”提案を行えるパートナーであり続けてください」と田上部長はマツウラへの期待を話されました。

写真は20,000号機 **MAM72-35V**の前で、右から生産技術部 田上知之部長、生産技術部 谷口彰規課長、生産技術部 第一グループ 藤田剛仁課長代理です。



シングルorダブル



社長 松浦 勝俊

私事ではありますが、今月中旬に 50 歳になります。会社を経営されている世の諸先輩方を前にして全くもって私まだまだ小僧ですが、個人的には「あー遂に半世紀か、織田信長の人間五十年だ」と感慨深いものがあります。

信長は、こんな小唄を好んで口にしておりました。

「死のうは一定 忍び草 忍び草には何をしよぞ一定語り起こすよの」

人生には期限があり、自分が生きた証を残したい。自分の死後にも人に語り継がれる事をする為に何をしようか。何か残す事が出来たら、後世の人は自分がした事を思い出し語り継いでくれるだろう。

人生をすごいスピードで駆け抜けた信長は、きっと自分自身に期限を設けて、生き急ぐような生き方をしたのでしょう。変化を好む人は多いですが、変革を起こした人物はそう多くありません。好き嫌いの

人間五十年

はっきり分かれる戦国武将の一人ですが、認知度は抜群です。自分に持っていないものを活かして具現化した人は、憧れの対象になるのではないかと思います。

さて、私は決して信長タイプではありませんが、今年創業 81 周年になる会社のバトンを渡されて、これといった才能もあるかないかも判らないまま社員と共に一所懸命走っております。故会長もそれはそれはいつも走っておりました。そしてマツウラの発展、特にグローバル展開に多大なる貢献をしました。現在の確固たる海外販路を築いた功績は計り知れず、我々に残してくれた大きな財産となっております。果たして私は何を残せるのでしょうか。

このシングル or ダブルを引き継いだ時は、ビールコップ一杯で顔が真っ赤になっていましたが、最近で中ジョッキ一杯は何とかこなせるようになりました。人も会社も世の中も変化するもの、皆様のお役に立てるよう、より良い変化を求めて一所懸命走っているマツウラを今後とも最真に宜しくお願い申し上げます。

名古屋市で開催された「メカトロテックジャパン2015」に出展

「メカトロテックジャパン2015」が平成27年10月21日(水)～24日(土)の4日間、ポートメッセなごやで開催されました。この展示会でマツウラは、「勝ち残るイノベーション」をテーマに、話題のハイブリッド金属3Dプリンタ「**LUMEX Avance-25**」、生産性・操作性・コストのベストバランスを実現した横形マシニングセンタ「**H.Plus-400**」、作業性・視認性に優れたベストセラー5軸制御立形マシニングセンタ「**MX-520**」を実演展示しました。ブースでは、「**MX-520**」の稼動を止めて、扉を開けて実際に体を入れて接近性を確認された方や、「**H.Plus-400**」では横から機械全体を見られ「コンパクトな機械になっている」と評されていました。

更に、簡単操作で2軸から同時5軸まで対応の「**GibbsCAM**」、高品位でパス編集可能な「**PowerMILL**」、革新的アルゴリズムにより同時5軸加工に最適な「**hyperMILL**」を展示し、マツウラのトータルソリューションを提案致しました。



▲注目を集める**LUMEX Avance-25**

ドイツ、フランクフルトで初開催された formnext2015 にハイブリッド金属3Dプリンタ「LUMEX Avance-25」を出品

2015年11月17日(火)～20日(金)までドイツのフランクフルト国際見本市会場(Messe Frankfurt)で国際工具・金型製造加工技術関連見本市formnext2015が開催され、「**LUMEX Avance-25**」を出品しました。この展示会は、工具製作や加工技術、3Dプリンタを中心とした最先端技術が集う国際見本市です。232社が出品し、約9000人の来場があり、最新の商品や情報が発表されました。

欧州では、航空機・医療だけでなく自動車産業にも金属3Dプリンタが普及しており、Audi社ブースには、実装されている金属3Dプリンタで作られた自動車部品が多数展示されていました。欧州の金属3Dプリンタ技術は進んでおり、欧州市場に対応するために更なる技術開発が必要と改めて感じました。



▲マツウラブース

アメリカ、カリフォルニア州にマツウラの技術をアピールするテクニカルセンタを開設

カリフォルニア州でのマツウラのマシニングセンタ販売は、サブ代理店のSelway Machine Tool社が行っており、販売強化の為にMatsuura West Coast Technical Center(MWCTC)を2015年11月に開設しました。場所は、カリフォルニア州の南部ロサンゼルスから東に約50kmにあるオントリオ市です。本センターは、営業拠点だけでなく、マツウラの主要ラインナップ機を展示し、加工デモ、テストカットなどの技術的サポートが可能になっています。これにより、このエリアにある航空機関連や、医療関係の企業に販売拡大が期待されます。

名称：Matsuura West Coast
Technical Center(MWCTC)
住所：4582 E Brickell Privado
Ontario, CA 91761 USA



▲MWCTC社屋



▲テクニカルセンタ内

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から平成27年11月度の受注総額が発表されました。11月度の工作機械受注額は1,143億円で、前月比は11.0%増となり、27ヶ月連続で1,000億円を超えています。内需は454億円で前月比は2.2%増で

す。454億円という受注額は昨年秋とほぼ同水準であり、依然として高い受注額が続いています。外需は689億円で前月比17.6%増となりましたが前年比23.4%減でアジアの受注減が影響しています。但し1～11月の累計受注額は、1兆3,734億円となり前年とほぼ同額となっています。

* アビコマシンの安彦社長とはマツウラの初号機を設備された時からご縁があります。当初の工場には何度か訪問していましたが、新工場は初めての訪問でした。初号機を知っており、現在マツウラのマシニングセンタが6台稼動する工場を見て工作機械メーカーで働く喜びを感じました。

管理本部 上村 誠